

令和5年度
北海道博物館
年度計画
(案)

令和5年3月
北海道博物館

— 凡 例 —

○本年度計画のP6～P21における各項目の重点計画、及び一般計画の記載について、【 】中のア、イ、ウなどは、北海道博物館第2期中期目標・計画の小項目ア、イ、ウに該当する。なお、記載の無い場合は、小項目が設定されていないものとなる。

例)

●本年度計画（P6）

1 資料の収集・保存（博物館基盤グループ）

一般計画

（1）資料の収集

【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施 [年間資料情報件数見込60件程度、年間資料登録件数見込約25件程度]

⇒上記の【ア】は、下記の中期目標・計画のアに該当する。

●中期目標・計画

（1）資料の収集

ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。

○「所要見込額」「予算計上」の予算額の数字は、当初予算額（既決）分を記載している。
なお今後予算計上する場合がある。

目次

北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管	4
令和5年度年度計画 事前評価結果	5
1 資料の収集・保存	6
2 展示	7
3 調査研究	8
4 北海道開拓の村の整備	9
5 教育普及事業	10
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化	11
7 施設及び周辺環境の整備	12
8 広報	13
9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握	14
10 道民参加の推進	15
11 博物館ネットワーク	16
12 情報発信	17
13 人材育成機能の強化と社会貢献	18
14 研究成果の発信	19
15 アイヌ民族文化研究センターの事業	20
16 4つのビジョン（重点目標）、及び博物館運営に係る重点課題	21

北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管

北海道博物館は、令和3年度より組織機構を改正し、中期目標・計画で示された15の事業展開と4つのビジョン（重点目標）の実現に向け年度計画を立て、各項目を各グループが分担して取り組む。

館長	副館長	部長	グループ（主幹・主査・係）	所管項目
館長	副館長	総務部長	総括グループ	7 施設及び周辺環境の整備
			企画グループ	4 北海道開拓の村の整備 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10 道民参加の推進 11 博物館ネットワーク 13 人材育成機能の強化と社会貢献 16 4つのビジョン（重点目標）、及び博物館運営に係る重点課題
	学芸副館長	学芸部長	博物館基盤グループ	1 資料の収集・保存 2 展示 12 情報発信
			道民サービスグループ	5 教育普及事業 6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 8 広報
			研究戦略グループ	3 調査研究 14 研究成果の発信
		研究部長	自然研究グループ	※1～14及び16の学芸職員の専門性に係る活動（資料の収集・整理、調査研究、展示、教育普及など）を分担
			歴史研究グループ	
			生活文化研究グループ	
			博物館研究グループ	
	-	アイヌ民族文化研究センター長	アイヌ文化研究グループ	15 アイヌ民族文化研究センターの事業 ※1～16の研究職員の専門性に係る活動（資料の収集・整理、調査研究、展示、教育普及など）を分担

令和5年度年度計画 事前評価結果

第2期中期目標・計画期 博物館総合評価実施方針（令和3年4月21日：北博第125号、令和4年8月26日：北博第574号（北博第125号の評価方法を一部改訂））に基づき、令和5年度年度計画について、博物館評価事前評価を実施した。各項目の評価結果は、以下のとおりである。

番号	項目名	第一次自己評価	第二次自己評価
1	資料の収集・保存	A	A
2	展示	A	A
3	調査研究	A	A
4	北海道開拓の村の整備	A	A
5	教育普及事業	A	A
6	ミュージアム・エデュケーター機能の強化	A	A
7	施設及び周辺環境の整備	A	A
8	広報	A	A
9	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	A	A
10	道民参加の推進	A	A
11	博物館ネットワーク	A	A
12	情報発信	A	A
13	人材育成機能の強化と社会貢献	A	A
14	研究成果の発信	A	A
15	アイヌ民族文化研究センターの事業	A	A
16	4つのビジョン（重点目標）、及び博物館運営に係る重点課題	A	A

*評価基準（（新）博物館総合評価におけるランク付けのガイドライン（令和4年8月改訂）より）

評価項目・対象			A・a	B・b	C・c
第一次 自己評価	個別 評価 項目	中期目標・計画との整合性	中期目標・計画に対して、年度計画に十分反映している	中期目標・計画に対して、年度計画への反映について考慮している	中期目標・計画に対して、年度計画への反映が不十分である
		年度計画の適切性	年度計画の構築に際し検討すべき事項を的確に確認しており、内容が適切である	年度計画の構築に際し検討すべき事項を概ね確認しており、内容は概ね適切である	年度計画の構築に際し検討すべき事項の確認が不十分であり、内容は不適切で再考が必要である
		協議会評価意見の反映	協議会評価の指摘事項等に対して適切に対応し、年度計画に十分反映している	協議会評価の指摘事項等に対して概ね適切に対応し、年度計画への反映について考慮している	協議会評価の指摘事項等に対して対応しきれておらず、年度計画への反映が不十分である
		実現の可能性	年度計画の実現が見込まれる	年度計画の実現がやや不安である	年度計画の実現の可能性は低い
	総括 評価	個別評価	aが1つ以上で、適切な計画である	概ね適切な計画である	cが1つ以上で、不適切な計画である
第二次 自己評価	総括 評価	第一次自己評価	適切な計画である	概ね適切な計画である	不適切な計画である

令和5年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	1	所管G	博物館基盤G			
項目名	資料の収集・保存					
計画策定担当者	主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	櫻井万里子	鈴木琢也		2,931	1,609	
予算計上	□【重点④】榊太記憶継承事業〔資料の保管 1,254千円、財源：基金繰入金、時限付き（15年間）〕 □北海道博物館事業費（資料収集・保存管理）〔355千円〕					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「榊太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国榊太連盟より受け入れた榊太関係資料（以下「旧榊太連盟から移譲を受けた資料」）約6,000点の収蔵・整理・保管				
	一般項目	<p>(1) 資料の収集</p> <p>【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施〔年間資料情報件数見込 60件程度、年間資料登録件数見込約 25件程度〕</p> <p>【イ】収集資料の調査、整理・分類・登録の推進（各研究Gへの働きかけ）</p> <p>(2) 収蔵機能の強化</p> <p>【ア】収蔵資料データベースの効率的な運用</p> <p>【イ】災害発生時の被災資料の受け入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討（企画Gとも連携して実施）</p> <p>【ウ】収蔵スペースの確保に向けた検討・取組</p> <p>(3) 資料保存環境の維持</p> <p>【 】適切な資料保存環境の維持に向けた取組</p> <p>【 】文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の変更申請及び会議・研修などへの参加</p> <p>(4) 収蔵資料の利用への対応</p> <p>【 】資料の貸出への対応〔年間見込 25件 500点程度〕</p> <p>【 】資料の特別観覧への対応〔年間見込 70件 1,000点程度〕</p> <p>【 】資料の模写品等使用への対応（北海道博物館）〔年間見込 120件 300点程度〕</p> <p>【 】資料の模写品等使用への対応（開拓の村）〔年間見込 40件 150点程度〕</p>				
前年度との主な変更点	・変更点なし					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によっては、特別観覧受入や資料収集等の縮小の可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性、予算との整合性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。重点項目である「榊太記憶継承事業」は、15年間の全体計画を踏まえ着実に進めること。一般項目(2)の「収蔵機能の強化」の各計画は当館における喫緊の課題解決に向けた取組であり、進捗を注視すること。また、全体の健康値に留意すること。			

令和5年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	2	所管 G	博物館基盤 G			
項目名	展示					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	会田理人	鈴木琢也		13,853	15,458	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点④】樺太記憶継承事業 [資料活用 3,748 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館特別展 [特別展 10,000 千円] <input type="checkbox"/> テーマ展示開催及び総合展示運営費 (1,527 千円) <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費 (展示会等に必要な機器借上・大型プリンタ) [183 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】旧樺太連盟から移譲を受けた資料の展示に向けた検討 【中期目標・計画/重点②】【(2)イ】道民参加型展示の企画・推進 【(1)イ】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成				
	一般項目	(1) 総合展示室の運営 【ア】総合展示室における展示資料の入替え推進 [年間延べ 40 点程度] 【ア】クローズアップ展示コーナーの更新推進 [年間 7 件 27 回程度] 【ア】アイヌ文化 Q & A (第 2 テーマ) の更新推進 [年間 3 回程度] 【ア】総合展示 2 階出口付近の参加型展示の更新 [年間 1 回程度] 【ア】第 4 テーマ「今とこれからをつくる」の入替え推進 [年間 3 件程度] 【ア】学芸員紹介コーナーの入替え [年間 1 回程度] 【イ】総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改訂の実施 【イ】次年度総合展示更新実施計画 (各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示) の作成 【イ】総合展示資料目録の作成・更新 【ウ】総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理 [随時] 【ウ】大掃除の実施計画作成と推進 [年間 1 回] (2) 企画展示の開催 【ア】他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成 【ウ】特別展の開催推進・運営 [年間 1 件程度] 【ウ】企画テーマ展の開催推進・運営 [年間 3 件程度] 【ウ】アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営 [年間 1 件程度] 【ウ】企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行 [年間 4 件程度] 【 】特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理 [随時] *北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実 (企画 G とも連携して実施)				
前年度との主な変更点	・変更点なし					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によっては、総合展示入替え及び企画展示の計画変更等の可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
実現の可能性				Ⓐ b c		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日	
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性、予算との整合性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。重点項目である「総合展示の段階的部分改修の計画作成」は、改正博物館法における「文化観光その他の活動の推進」に係る取組であり、入念な計画作成を行い予算要求ならびに補助金申請へと導くこと。一般項目(2)の「企画展示の開催」については、館全体の業務との調整や指定管理者との連携に留意し展開すること。また、全体の健康値に留意すること。				

令和5年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号	3	所管 G	研究戦略 G			
項目名	調査研究					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	大坂 拓	水島未記		12,438	14,488	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点④】樺太記憶継承事業 [調査研究 1,680 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (外部資金活用) [6,337 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (一般研究) [1,339 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (地域情報集積) [1,964 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (総合研究) [1,367 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (北方文化研究) [1,801 千円] ※アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト研究費は、北海道博物館事業費 (アイヌ民族文化研究センター・調査研究費) [919 千円] として計上 → 「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「樺太記憶継承事業」(旧樺太連盟から移譲を受けた資料を活用した樺太の歴史・生活文化等の記憶継承に関する調査研究)の実施推進 [道費による研究]				
	一般項目	【ア】北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：4 課題] 【ア】アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：2 課題] 【イ】道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進 [道費による研究：5 課題] 【ア】【ウ】科学研究費による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：16 課題+α 見込み] 【ア】【ウ】科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：2 課題] 【エ】北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進 (サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進) [道費による研究：2 課題] 【オ】研究課題評価の実施 [道費による研究：13 課題] 【オ】館内定例研究報告会の実施 [年間 12 回]				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	水島未記	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 コロナ禍も収束しつつあり調査等も計画どおり実施できるようになってきていることから計画は適切と判断する。アルバータとの交流も再開を期待する。ただしサハリンとの交流については再開困難と予想される。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
			実現の可能性	Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性、予算との整合性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。一般項目の「研究課題評価の実施」については、これまで実施できていなかったが、令和5年度より着実に実施し、研究の計画、進捗、成果の管理に結び付けること。また、各研究プロジェクトは、特別展や企画テーマ展での成果の公開を検討すること。			

令和5年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号		4	所管 G	企画 G			
項目名		北海道開拓の村の整備					
計画策定担当者		学芸主査	研究主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
		東俊佑	甲地利恵		2,552	2,297	
予算計上		□開拓の村費（開拓の村建造物老朽度調査）[2,297千円] ＊開拓の村建造物の改修工事は、建設部集約工事により「北海道開拓の村旧北海中学校改修工事」に係る実施設計[8,151千円]、「北海道開拓の村歴史建造物（12棟）屋根外壁等修繕工事」に係る実施設計[13,651千円]、「北海道開拓の村ビジターセンター改修ほか設備更新工事」に係る実施設計[10,857千円]をR5年度に実施予定。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる北海道開拓の村の利活用に関する本庁との連携強化 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計52棟） 【ウ】北海道開拓の村歴史的建造物の魅力発信コンテンツの制作・発信					
	一般項目	【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の補修工事实施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）[年間2件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の老朽度調査[年間2件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物のメンテナンス [随時] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計52棟+インフラ） 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実（随時、基盤Gと連携して実施） 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善 [6カ国語、110コンテンツ]					
前年度との主な変更点		・重点項目の文言「あり方の具体的取組の検討」を、「利活用に関する本庁との連携強化」とした（理由は以下「直近の協議会評価意見に対する取組み」のとおり）。 ・「北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成」及び「北海道開拓の村歴史的建造物の魅力発信コンテンツの制作・発信」の2項目を一般項目から重点項目へ変更した。令和5年度から本格的に事業を推進する必要があるからである。					
直近の協議会評価意見に対する取組み		・令和4年度第1回北海道立総合博物館協議会において、博物館外（例えば道庁との関係）とのガバナンスについての取組みを、評価調査に記載するよう指摘された。今後、北海道開拓の村の利活用に関する具体的取組を推進する必要があることから、文化振興課との連携体制の強化に関する項目を重点項目とした。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 上記計画は概ね妥当である。文化振興課との連携を強化して「開拓の村」の維持・活用方針を定めるとともに、「構想」を実現していくための中長期的な取組に着手していく必要がある。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
				実現の可能性	Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	総務部長	島村哲也	評価完了日	令和5年2月1日	
	Ⓐ B C	【意見】 開拓の村の現状と課題を踏まえ、中長期的な取組に繋がる計画として適切と考える。				

令和5年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	5	所管 G	道民サービス G			
項目名	教育普及事業					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	遠藤志保・表溪太	三浦泰之		326	326	
予算計上	□北海道博物館事業費（魅力あるイベント事業）[326 千円] ※北海道博物館特別展関連イベントは、北海道博物館特別展（財源：地方創生推進交付金）の一部を使用予定 →「2 展示」を参照のこと。 ※解説員（一般職非常勤職員）及び会計年度任用職員の人件費は除く。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的な取組の検討				
	一般項目	(1) 魅力あるイベントの充実 【ア】【イ】【ウ】一般普及行事の実施推進 [年間 50 回程度] 【ア】【イ】 総合展示室等で行うイベントの実施推進 [随時] * 【ア】「ちゃれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充 [常時] * 【ア】【イ】【ウ】 次年度普及行事実施計画の作成 【エ】「情報デスク」を活用した交流・誘導 [常時] 【エ】 解説員による総合展示の展示解説 [常時] 【エ】 解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討・試行 (2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実 【ア】 学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施 [10 メニュー] 【ア】 はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 [6 メニュー] * 【イ】 「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】 展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 * 【イ】 総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討 【イ】 総合展示室における子ども向け展示解説の検討 【イ】 ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新 【イ】 視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充 【イ】 オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充 (3) はっけん広場の運営 【ア】 解説員によるはっけん広場の展示解説 [常時] * 【ア】【イ】 「はっけんイベント」の実施 [年間 7 メニュー] * 【イ】 「はっけんキット」の運用 [41 メニュー] * 【ウ】 学校教育用補助教材の貸出と開発の推進 ※ 末尾に「*」と付した項目については、令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大対策のために休止していた。令和5年度には、感染拡大状況を注視しながら、再開できるものは順次再開させていく予定である。				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性、予算との整合性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。とりわけ、令和5年度は、新型コロナ感染症の感染拡大に伴って休止した教育普及事業の各種を段階的に再開させていく年度と見込まれる。国や道の政策、社会の動向、日本博物館協会のガイドライン、そして利用者の要望等を根拠とし、再会できるメニュー、再開の時期、再開の規模などを見極めながら、適切な判断のもと事業の再開とその周知に努めること。			

令和5年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	6	所管 G	道民サービス G			
項目名	ミュージアムエデュケーター機能の強化					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	遠藤志保	三浦泰之		0	0	
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【ウ】新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討				
	一般項目	【ア】文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣の調整 [都度実施] 【ア】博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討 【ア】解説員研修の実施 [都度実施] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向けの研修会の実施 ・「教員のための博物館の日」への参加 [年間 1 回、対象：学校教員等] ・「博物館教育プログラム研修会」の実施 [年間 1 回、対象：学校教員等] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施 [年間 30 件程度] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の編集・刊行 [年 1 回] 【イ】学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
			実現の可能性	Ⓐ b c		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日	
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。とりわけ、学校団体による博物館利用は新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前の状態に戻つつあり、また、平成 29 年から 31 年にかけて学習指導要領が改訂されたことから、それらへの対応とスキルが求められている。なお、学校団体に向けて独自に実施している感染症対策については、社会の状況を見極めつつ縮小ないし解消の方向性を探る年度とすることが見込まれる。				

令和5年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	7	所管 G	総括 G			
項目名	施設及び周辺環境の整備					
計画策定担当者	主査	主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	藤田竜太	島村哲也		355,164	418,743	
予算計上	□北海道博物館管理運営費 [406,487 千円、指定管理負担金 (博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、森林公園含む)] □野幌森林公園管理費 (庁舎等維持費) [3,256 千円] □野幌森林公園施設整備費 [9,000 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】【(3)】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成 30 年 12 月策定)の実現に向けた取組の推進 ・「野幌森林公園エリアの活用」及び「北海道開拓の村利活用方針」に基づく具体的な取組				
	一般項目	(1) 館内施設の整備と活用 【ア】老朽化した施設・設備の補修及びコロナ感染症対策の実施など快適かつ安全な施設利用に向けた検討・取組 【ア】特別展の開催に合わせたグッズ販売など博物館の魅力アップの取組に向けた検討 【ア】年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の整備に向けた検討・取組 【イ】屋上スカイビューの特別開放を実施 [年間8回] 【イ】記念ホールの開放ほか施設の多様な活用 (2) 周辺環境の整備 【ア】野幌森林公園内の自然公園設備の点検及び老朽化した箇所の改修による安全性・利便性の向上 【ア】公共交通機関の利便性向上に向けた現状把握 【イ】サインの統一化に向けた取組 【ウ】野外展示の現実に向けた他県での類似事例等の情報収集 (3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進 【 】指定管理者との連携強化を目的とした博物館管理運営等連絡調整会議の運営 【 】関係機関との情報交換・連絡調整				
前年度との主な変更点	・「野幌森林公園エリアの活用(素案)」(R5~R10)「北海道開拓の村利活用方針(素案)」(R5~R10)に沿って、施設及び周辺環境の整備を検討・実施していく。 ・(1)【ア】「コロナ感染症対策の実施」については、令和2年度以降、館内で感染症拡大防止対策を継続的に実施しており、コロナ禍において施設利用者の快適性や安全性を重点的に検討・取り組むため追記を行った。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・令和4年度第1回博物館協議会において、「新札幌駅のバスターミナルがわかりづらい」等の公共交通機関によるアクセスの意見があったことから、令和5年度の計画としてR5年度企画展等で実施するアンケートにおいて、アクセスに関するアンケート項目を作成し現状把握を実施する。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	主幹	島村哲也	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 上記計画は概ね妥当である。老朽化した施設・設備の補修や来館者の快適かつ安全な施設利用に向けた検討・取組など周辺環境の整備を含め促進する必要がある。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	総務部長	島村哲也	評価完了日	令和5年1月24日
	Ⓐ B C	【意見】 同上			

令和5年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号	8	所管 G	道民サービス G			
項目名	広報					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	青柳かつら	三浦泰之		529	529	
予算計上	□北海道博物館事業費(広報サービス事業費)[529千円] ※上記は印刷製本費。発送費は、野幌森林公園管理費(庁舎等維持費)のなかの通信運搬費[520千円]より充当。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組				
	一般項目	(1) 広報活動の強化 【ア】報道機関等への対応(新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか) [掲載・報道見込:年間延べ400件程度] 【ア】報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施 【ア】各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供(協力、寄稿、出演等)の推進 [年間延べ100件程度] 【ア】招待講演(講座・講演会)等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進 【ア】ICTを活用した広報(ウェブサイト、Twitter等)による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信の実施(年間200回程度) 【ア】広報誌『森のちゃれんがニュース』の編集・発行・配布(年間4回(季刊)刊行) 【ア】『行事あんない』の編集・発行・配布(年間2回(前期・後期)刊行) 【ア】特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布(年間1回) 【ア】企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布(年間3回) 【ア】特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布(年間1回程度) 【ア】各種印刷・刊行物の発送・配布(年間7回程度) 【ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組 【ア】海外に向けた情報発信の強化に向けた検討 【イ】愛称やロゴマークの積極的活用 【イ】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討 (2) 他機関との連携による広報活動の強化 【 】北海道教育委員会(北海道生涯学習推進センター)と連携した、「道民カレッジ」への当館一般普及行事の情報提供(年間2回) 【 】他機関との連携による広報活動の実施(年間5件程度)				
前年度との主な変更点	・一般項目(2)の「道民カレッジ」の「連携講座の廃止」「オンラインによる講座情報申請」「手帳の電子化」等の変更に伴い、これらに対応した情報提供を推進する。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
				実現の可能性	Ⓐ b c
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性、予算との整合性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。なお、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため休止していたサービスの段階的再開、感染症拡大防止のために進んでいた感染症対策の段階的縮小ないし解消が見込まれるため、館の状況の変化について利用者への周知を随時徹底すること。また、全体の健康値に留意すること。			

令和5年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号		9	所管 G	企画 G			
項目名		評価制度の活用と利用者ニーズの把握					
計画策定担当者		学芸主査	研究主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
		東俊佑	甲地利恵		416	416	
予算計上		【環境生活部総務課計上】 □総務管理諸費(各種審議会経費:北海道立総合博物館協議会)[416千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【イ】オーディエンス・リサーチ(利用者調査)の実施					
	一般項目	<p>(1)評価制度の活用</p> <p>【ア】前年度の事業実績の取りまとめの推進</p> <p>【ア】「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営[事前評価1回、事後評価1回]</p> <p>【ア】『要覧』の編集・刊行[年1回]</p> <p>【イ】「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年度計画の作成</p> <p>【ウ】「北海道立総合博物館協議会」の開催(年間2回)による調査審議と外部評価の実施推進・運営</p> <p>【ウ】「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催(年間1回)による調査審議と外部評価の実施推進・運営</p> <p>(2)利用者ニーズの把握</p> <p>【イ】特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析</p> <p>【イ】利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析(秋期の一定期間実施)</p> <p>【イ】解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】アイヌ文化Q&A(総合展示室第2テーマ)による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日)</p> <p>【イ】口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握(開館日毎日)</p>					
前年度との主な変更点		・重点項目「オーディエンス・リサーチ(利用者調査)の実施検討」を「実施」に改めた(検討は令和3年度に行い、実施要項を取りまとめたため。ただし令和3年度のオーディエンス・リサーチは特別展「世界の昆虫」の混雑により中止)。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み		・令和4年度第1回博物館協議会において、博物館評価調書の記入等について、評価できる点、改善・検討を要する点などさまざまなご指摘をいただいた。改善点について、ご指摘を踏まえ修正を図っていきたい。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 上記計画は概ね妥当である。新しい「博物館総合評価」の実効性の確立、利用者調査に基づく多様な意見の把握→改善のサイクルの確立、「利用者満足度」の客観的な把握に向けた取組が必要である。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	総務部長	島村哲也	評価完了日	令和5年2月1日
	Ⓐ B C	【意見】 博物館協議による調査審議や評価をはじめ、利用者ニーズの把握等が今後の博物館運営の改善につながるよう、より実効性のある取組として適宜必要な見直しを行いながら進めることが重要。			

令和5年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号	10	所管 G	企画 G			
項目名	道民参加の推進					
計画策定担当者	学芸主査	研究主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	甲地利恵		0	0	
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点②】【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（各研究 G へのサークル立ち上げへの働きかけ） 【中期目標・計画/重点②】【ア】 第 3 期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討 【中期目標・計画/重点②】【ウ】 北海道博物館の各種活動に対する道民参加のあり方検討				
	一般項目	【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービス G と連携） 【ア】 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤 G と連携） 【イ】 道民参加型調査研究の推進（研究戦略 G と連携） 【イ】 道民参加型展示の推進（博物館基盤 G と連携） 【ア】 ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新 【イ】 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期 1 回実施）				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 上記計画は概ね妥当である。「ちゃんか古文書クラブ」などサークル活動の推進、道民参加型の展示・調査研究の推進をとおして、ボランティア活動の導入や支援組織の整備に結びつけていく必要がある。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
				実現の可能性	Ⓐ b c
第二次自己評価	総括評価	総務部長	島村哲也	評価完了日	令和5年2月1日
	Ⓐ B C	【意見】 評価された活動の継続のほか、様々な取組における道民参加の機会創出などにより、中長期的な課題解決につながられるよう取り組んでいくことが必要。			

令和5年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	11	所管 G	企画 G			
項目名	博物館ネットワーク					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	尾曲香織	甲地利恵		70	70	
予算計上	【環境生活部総務課計上】 <input type="checkbox"/> 総務管理諸費（各種負担金：公益財団法人日本博物館協会会費）[55 千円] <input type="checkbox"/> 総務管理諸費（各種負担金：北海道博物館協会会費）[15 千円] ※北海道博物館協会の運営（事務局館）に係る経費は、北海道博物館協会から支出。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点③】【(2)ア】 国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討（道内博物館への誘客促進、今後の連携・協働・役割分担についての協議）（アイヌ民族文化研究センターと連携）				
	一般項目	(1) 各種博物館団体との連携 【ア】 日本博物館協会（日博協）との連携・協力、北海道支部の運営 【ア】 全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）との連携・協力 【イ】 北海道博物館協会（道博協）との連携・協力 【イ】 北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行） 【イ】 北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進 (2) 博物館交流の促進 【ア】 周辺施設とのネットワーク事業の実施 [年間 3 件程度] 【ア】 外部主催イベントへの参画 [年間 3 件程度] 【イ】 道内学芸職員対象の研修会等の開催検討（学芸職員部会との連携）				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目		個別評価
	A B C	【説明】 中期計画に基づく令和5年度計画として概ね妥当。日博協の支部長館、歴民協の北海道ブロック幹事館、道博協の事務局館、周辺施設ネットワークの幹事館の業務等を通じ、中核的博物館としての役割を果たすことができる。		中期目標・計画との整合性	a b c	
				年度計画の適切性	a b c	
				協議会評価意見の反映	a b c	
		実現の可能性	a b c			
第二次自己評価	総括評価	総務部長	島村哲也	評価完了日	令和5年2月1日	
	A B C	【意見】 当館の使命の一つである北海道の中核的な博物館として、博物館協会の事務局としての役割や他施設との連携事業の取組などにより、ネットワーク構築に務めることが必要。				

令和5年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号		12	所管 G	博物館基盤 G		
項目名		情報発信				
計画策定担当者		主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		櫻井万里子	鈴木琢也		5,338	5,338
予算計上		□情報システム整備費、総合政策部随計上 [5,338 千円] ※図書購入費は、北海道博物館試験研究費(情報集積推進事業)のなかの図書購入費 [680 千円] より充当。				
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】 収蔵資料データベースに登録する情報(デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャン、資料情報内容の調査等)の拡充推進(各研究 G への働きかけ) 【(1)ア】 収蔵図書(道内外の博物館展示会図録等を含む)の整理とデータベース登録 【(1)ア】 北海道博物館(旧開拓記念館、旧センター含む)刊行物(特別展図録、研究紀要、ニュースレター等)のスキャンによるアーカイブ化の検討 【(1)イ】 収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブの公開のあり方検討				
	一般項目	(1) 情報発信機能の強化 【ア】 情報システム(収蔵資料データベース)の保守・管理・機能拡充 【イ】 情報システムを活用した関係機関(道内外博物館、文書館、図書館等)とのネットワーク構築に向けての検討(道民サービス G と連携) 【イ】 デジタル技術を用いた総合展示の情報発信 【イ】 『北海道博物館資料目録』刊行実施計画の作成 (2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援 【ア】 収蔵図書の充実 [年度末時蔵書数見込 153,000 冊程度] 【ア】 図書ボランティア制度の運用 【イ】 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備 [年間利用者見込 3,500 人程度(うち図書室のみの利用者 35 人程度)] 【イ】 企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営(年間 6 回程度) 【ウ】 各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進 [年間見込 560 件程度] 【ウ】 レファレンスの窓口一元化(ICT を活用したレファレンスなど)と効率化(よくある問い合わせ Q&A の開設など)による機能強化に向けた検討 【ウ】 関係機関(道内外博物館、文書館、図書館など)との連携によるレファレンスの検討				
前年度との主な変更点		・変更点なし。				
直近の協議会評価意見に対する取り組み		・該当意見なし。				

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 情報発信強化のため、その基盤整備等を進める計画をたてており、適切な年度計画が策定されている。一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によっては図書室の利用者数などが縮小する可能性も想定される。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				Ⓐ b c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性、予算との整合性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。重点項目の各計画は、改正博物館法における「博物館資料に係る電磁氣的記録の作成・公開」に係る基礎的な取組、かつ、当館にとって喫緊の課題解決に向けた取組であり、研究部と連携し着実に進めること。また、全体の健康値に留意すること。			

令和5年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号		13	所管 G	企画 G		
項目名		人材育成機能の強化と社会貢献				
計画策定担当者		学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		山際秀紀	甲地利恵		0	0
予算計上						
年度 計 画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。また、そのために必要な支援の拡充に努めるための検討。				
	一般項目	<p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ 【ア】博物館実習生やインターンシップの受入れ [年間 20 人程度] 【ア】職場体験・見学実習の受入れ [年間 10 件、延べ 100 人程度] 【イ】高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣</p> <p>(2) 外来研究員の受入 【 】外来研究員(外部研究者や大学院生等)の受入に関する検討・取組・制度整備(研究戦略 G と連携)</p> <p>(3) 当館職員の資質向上 【 】博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加 [年間見込 10 件、延べ 20 人程度]</p> <p>(4) 職員の対外貢献 【 】招待講演(講座・講演会)等への職員派遣、各種委員・非常勤講師への就任、学術的な協力(指導助言等)、執筆依頼等 [年間 70 件程度]</p> <p>(5) 外部機関との事業連携 【 】他機関等との連携・協力 [年間 20 件程度]</p> <p>(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 【ア】【ウ】アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進 【イ】「北海道総合計画」(平成 28 年度～令和 7 年度)などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進</p>				
前年度との主な変更点		・変更点なし。				
直近の協議会評価意見 に対する取り組み		・令和 4 年度 第 1 回北海道立総合博物館協議会意見「3」の第 1 次自己評価において、一般項目(2) 外来研究員の受入について、「外来研究員の受入れに関する検討の未実施は何年も持越されていることについて何か阻害要因があるのか、どうしたらそれを取り除けるのか。あるいは、課題を設定し直すなどの検討はしたのか。」を踏まえ、外来研究員の受け入れ検討は、研究戦略グループとも連携を図り、具体的な実現に向けて、調査や情報収集などを行い、進める。				

【事前評価】

第 一 次 自 己 評 価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】中期計画に基づく令和 5 年度計画として概ね妥当。外部人材育成への貢献、当館職員の資質の向上、知見を活かした社会貢献や事業連携に引き続き取り組むべき。外来研究員制度については、他機関の事例や道の制度との整合性をはかり検討立案を進めることが必要。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
				実現の可能性	Ⓐ b c
第 二 次 自 己 評 価	総括評価	総務部長	島村哲也	評価完了日	令和 5 年 2 月 1 日
	Ⓐ B C	【意見】博物館実習生の受け入れや館職員の講師派遣など対外貢献の取組の継続のほか、中長期的な課題解決につなげられるよう取り組んでいくことが必要。			

令和5年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	14	所管 G	研究戦略 G			
項目名	研究成果の発信					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	大坂 拓	水島未記		549	702	
予算計上	□北海道博物館試験研究費（研究成果の集約・発信）[702千円] ※上記は、主に『北海道博物館研究紀要』の刊行費。 ※『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』刊行費は、北海道博物館事業費（アイヌ民族文化研究センター・調査研究）により実施 [641千円]。→「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)】各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討。				
	一般項目	(1) 学術刊行物などの刊行 【ア】『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回） 【ア】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回） 【イ】職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討 (2) 学会への発信 【 】学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進 [年間 35 件程度] 【 】学会、研究会等での発表推進 [年間 20 件程度]				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	水島未記	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 例年どおり『研究紀要』を刊行し、そのほかの形での研究成果の発信も肅々と実施するというので、適切な年度計画であると判断する。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
実現の可能性				Ⓐ b c		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	池田貴夫	評価完了日	令和5年2月4日	
	Ⓐ B C	【意見】 事業の必要性、予算との整合性等を総合的に勘案し、適切な計画であると判断する。なお、『北海道博物館研究紀要』において、「論文」として掲載された原稿がこれまで少なかったと感じられるが、このことをめぐり何かしらの問題点が館に潜んでないか検証すること。また、一般項目(2)の「学会への発信」については、実績値が健康値と大きく乖離する場合には、その原因を分析すること（令和5年度第1回協議会での質問に基づく）。				

令和 5 年度 博物館評価調書 (案)

中期目標・計画番号	15	所管 G	アイヌ民族文化研究センター			
項目名	アイヌ民族文化研究センターの事業					
計画策定担当者	研究主査/学芸主査	研究主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	遠藤志保・大坂拓	甲地利恵		2,683	1,438	
予算計上	□北海道博物館事業費(アイヌ民族文化研究センター分) [資料保存管理: 268 千円、調査研究: 919 千円、広報: 251 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点③】ウポボイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み				
	一般項目	<p>(1) アイヌ文化に関する調査研究とその成果の普及</p> <p>〈調査研究〉</p> <p>【ア】【イ】アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進 [道費による研究: 2 課題 (この 2 課題の下に、各職員が 1 名ないし複数名で実施する個別課題を設けている)] ※R5 年度から、プロジェクト内の個別課題についても改めて課題と期限を明確化させる</p> <p>【ア】【イ】北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進 ※R5 年度から漸次共同研究を再開できる見通し</p> <p>【ア】【イ】日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進</p> <p>【中期目標・計画/重点④】樺太(サハリン)に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進</p> <p>〈資料の収集と整理・公開〉 ※R5 年度から、数値または対象となる資料群と作業の期限を明確化させる。</p> <p>【イ】アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進</p> <p>【ウ】採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施(諸手続き含む)</p> <p>【イ】【エ】アイヌ文化関係資料のデジタル化・情報発信の促進</p> <p>〈研究成果の発信と普及〉</p> <p>【エ】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集計画の策定と投稿の奨励・推進</p> <p>【エ】館内外における教育普及事業(講座、ワークショップ等)を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み</p> <p>【エ】当館における企画展示の立案及び実施に向けた検討 ※館全体での計画策定の中で検討を進める。</p> <p>【エ】当館総合展示における展示資料の入替及びクローズアップ展示の更新 ※所定の件数を着実に進める</p> <p>【エ】道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催(美唄市、釧路市、奥尻町での開催を検討)</p> <p>【エ】アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソッ』(全 1~9 巻)の増刷(補訂)・配布・活用 [都度実施]</p> <p>【エ】広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信</p> <p>(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援</p> <p>【ア】アイヌ文化に関する学術情報(収集資料データ、調査データ、文献情報等)の集約</p> <p>【ア】「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信</p> <p>〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉</p> <p>【イ】市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地から助言・支援・協力等。</p> <p>【ア】国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画</p>				
前年度との主な変更点	<p>・ 特段の変更はなく、前年度に引き続き、中期目標・計画に基づき個別の事業の年度計画を策定し実施する。</p> <p>※ 文化観光推進拠点計画(項目「16」参照)の応募・採択等の館全体の今後の動きによっては、新たな事業要素が加わる可能性がある。</p>					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<p>・ 資料・情報の収集整理、発信、公開などの遅延、目標設定と計画設計の見直しについての評価意見を踏まえ、資料整理については引き続き年度当初に課題と計画を検討する場を設け、担当の分担及び整理・公開や目録刊行等のスケジュールや期限を、より明確にした計画を立てるようにつとめている。</p> <p>・ 国立アイヌ民族博物館・国立民族共生公園との連携や役割分担に関する指摘を踏まえ、同博物館を中心とするネットワークへの参加など、情報の提供や共有、意見交換等の機会を広げるようにつとめている。</p>					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目	個別評価
	A B C	【説明】中期計画に基づき、引き続きアイヌ文化の研究と成果の普及を推進できる計画である。新型コロナウイルス感染症の影響はなお残るが、対策をとりながら実施を進めた前年度実績をふまえ、当年度計画も概ね無理なく実施することが可能である。		中期目標・計画との整合性	(a) b c
				年度計画の適切性	(a) b c
				協議会評価意見の反映	(a) b c
実現の可能性				(a) b c	
第二次自己評価	総括評価	センター長	小川正人	評価完了日	令和 5 年 3 月 日
	A B C	<p>【意見】・全体としては、基本的な方向性と近年の社会状況を踏まえた妥当な計画であると認識しています。</p> <p>・ 先の専門部会等でも指摘のあった、取り組み体制が比較的脆弱な地域に対する連携を深めることや、近年の社会状況を踏まえた理解促進に取り組む姿勢が重要であると評価できると認識しています。</p> <p>・ 課題として、資料の整理及び公開の促進について引き続き着実な実施を図ることに加え、個別及びセンターとしての調査研究計画の明確化(課題・目標・方法・進め方等の明確化)が求められる部分があると認識しています。</p>			

令和5年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	16	所管 G	北海道博物館 (企画 G)			
項目名	4つのビジョン (重点目標)、及び博物館運営に係る重点課題					
計画策定担当者	主査	主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	甲地利恵		18,458	25,216	
予算計上	□【新規】北海道デジタルミュージアムを活用した文化観光推進事業 [25,216千円、財源：デジタル田園推進交付金、時限付き] ※樺太記憶継承事業 [6,546千円、財源：基金繰入金、時限付き (15年間)] →「1 資料の収集・保存」「2 展示」「3 調査研究」を参照のこと。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」実現に向けた取組の推進 ・「野幌森林公園エリアの活用」及び「北海道開拓の村利活用方針」に基づく具体的な取組 【「7」より再掲】 ・文化観光推進法に基づく拠点計画の策定・認定申請等 ・博物館法の一部を改正する法律 (以下「改正法」) の施行 (令和5年4月1日より) にあたり、環境生活部、道教育庁、北海道博物館協会、日本博物館協会及び文化庁などと連携・調整を図り、諸制度を整備 【中期目標・計画/重点②】 道民参加型の活動の推進 【「10」より再掲】 ・道民参加型学習サークル活動の推進 (各研究 G へのサークル立ち上げへの働きかけ) ・第3期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討 ・北海道博物館の各種活動に対する道民参加のあり方検討 【中期目標・計画/重点③】 国立アイヌ民族博物館との連携 【「15」より再掲】 ・ウポボイ (民族共生象徴空間) とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道博物館の活性化貢献に向けた検討・取組 【中期目標・計画/重点④】 「樺太記憶継承事業」 (旧樺太連盟から移譲を受けた資料を活用した樺太の歴史・生活文化等の記憶継承に関する調査研究) の実施推進 [道費による研究] 【「3」より再掲】				
	一般項目					
前年度との主な変更点	・改正法施行に係る関係機関等との連携・調整、体制整備の推進					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	甲地利恵	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】新規項目のいずれも4つのビジョン (重点目標) につながる全館的な事業として適切である。各グループを横断した事業展開にあたり、全体のスケジュールや会議その他情報共有など、企画グループの調整のもと、全館的な体制で推進することが重要である。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
実現の可能性				Ⓐ b c		
第二次自己評価	総括評価	総務部長	島村哲也	評価完了日	令和5年2月28日	
	Ⓐ B C	【意見】 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向け、第2期における重要な取組として文化観光推進法に基づく計画の認定を目指すこととしており、計画の実現のため全館的な体制のもとで取り組むことが必要。				